

# 第6学年算数科学習指導案

## 1 単元名

「円の面積の求め方を考えよう」(全8時)

## 2 単元の目標

算数科学習指導要領 第3章各学年の目標及び内容 B 図形 (3) 円の面積

### B (3) 円の面積

(3) 平面図形の面積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 円の面積の計算による求め方について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 図形を構成する要素などに着目し、基本図形の面積の求め方を見出すとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くこと。

(3) 内容の「B 図形」の (3) のアの (ア) については、円周率は 3.14 を用いるものとする。

### 〔数学的活動〕

ア 日常の事象を数理的に捉え問題を見出して解決し、解決過程を振り返り、結果や方法を改善したり、日常生活等に生かしたりする活動

イ 算数の学習場面から算数の問題を見いだして解決し、解決過程を振り返り、統合的・発展的に考察する活動

ウ 問題解決の課程や結果を、目的に応じて図や式などを用いて数的に表現し伝え合う活動

## 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①円の面積は、(半径)×(半径)×(円周率)で求めることができることを理解し、円の面積を求めることができる。 ②公式が半径を一边とする正方形の面積の3.14倍を意味していることを理解している。	①円の面積の求め方について、図形を構成する要素などに着目して、既習の求積可能な図形の面積の求め方を基に考えたり、説明したりしている。 ②円の面積を求める式を読み、もとの円のどこの長さに着目すると面積を求めることができるのかを振り返って考え、簡潔かつ的確な表現に高めながら、公式を導いている。	①円の面積を求める公式を作る際に、簡潔かつ的確な表現に高めようとしている。 ②半径の長さがわかれば、公式に当てはめることで円の面積を求めることができるというよさに気付いている。 ③円の面積の求め方を、進んで生活や学習に活用しようとしている。

## 4 指導構想

### (1) 教材観

児童は第5学年で、円周率や円周の長さを求める公式などについて学習してきている。また、平行四辺形や三角形、台形、ひし形といった、直線で囲まれた図形の面積の求め方も学習してきている。これらの理解をもとに、本単元では円の面積の求積公式を導いていく。本単元では、円の面積を求める際、直線で囲まれた既習の図形に、等積変形すればよいことを理解し、求積公式として導く力、また、その公式を活用して、計算で面積を求める力を育成する。

円は、曲線で囲まれた図形であり、その面積を数値で正確に表すことはできない。また、求積公式の導き方も平行四辺形や三角形などと比較すると複雑である。そこで、はじめに、円の面積の見積もりを行い、大きさの見通しを持たせ、円周率との関係に気付かせていくことが重要である。

その上で、円の面積の求積公式へつなげていくが、ここでもすぐに考えさせたり、等積変形を提示したりするのではなく、まず、「求積が既習である図形になおせないか」という見通しを持たせることが重要である。そうすることで、「既習事項に帰着させる」、「既習事項を活用する」という考え方や、態度を身に付けさせていきたい。

また、本単元では、円を等積変形した長方形をもとに、公式の導き方を説明する活動や、円を分割したり組み合わせたりした複合図形の面積の求め方を説明し合う活動を大切にしたい。

### (2) 児童観・指導観

#### ①全国学力状況調査の結果から

6年生の児童は学力に差はあるが、どの児童も前向きに学習に取り組むことができる。以下は、全国学力状況調査の質問紙の結果の一部である。

	当てはまる	どちらかといえ ば、当てはまる	どちらかといえ ば、当てはまらない	当てはまらない
算数の勉強は好きだ	6	4	2	0
算数の勉強は大切だ	11	1	0	0
算数の授業の内容はよくわかる	6	6	0	0
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	11	1	0	0
算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないかを考える	8	4	0	0
算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える	9	3	0	0
算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている	6	6	0	0
算数の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしている	8	4	0	0

以上の結果と普段の授業の様子から、

- ・算数の必要性を理解している児童が多い。
- ・生活の中で活用できないか考えたり、学習で活用しようと考えたりすることができる集団である。
- ・別の解き方を考えようとする児童は、増えてきている。
- ・既習事項を活用して、言葉や図、式を使って筋道立てて考えようとしている姿は増えてきている。
- ・わからないときに、どう動けばよいのかわからず、学びの自己調整をする力が弱い児童がいる。
- ・授業を理解しきれていないと感じる児童がいる。

・互いに解決方法を伝え合う中で、他者の表現のよさに気づき、よりよいものへと高めたり、相手に応じてわかりやすく説明するために、言葉や式を書き加えながら整理したりすることができる児童は少ない。

これらのことから、本単元では、つまずきのある児童への手立てを講じるとともに、児童が満足感をもって終えられる授業を目指したい。

②レディネステストの結果から

問題内容は次の通り。

- ①円周の長さを求める。直径がわかっている。
- ②円周の長さを求める。半径がわかっている。
- ③平行四辺形の面積を求める。
- ④三角形の面積を求める。
- ⑤三角形の面積を求めるときに、平行四辺形に帰着して求めることができることを図から考える。
- ⑥⑤の考えで実際に面積を求める。

算数につまずきの多い4名の児童を A～D 児とする。円の面積レディネステストでは、以下のような結果であった。

	①	②	③	④	⑤	⑥	分析
A 児	○	×	×	×	○	×	円周を求める公式は覚えているが、半径と直径の区別がつかない。または、問題が読み取れていない。既習の面積公式を覚えられていない。図形の中で、底辺や高さを見つけることができない。
B 児	○	○	○	○	×	×	公式を覚え、図形に応じて使うことができる。自分の考えを表現することが苦手。見通しのもてない児童を前に集めるときなどに、自分から動き出せない。
C 児	○	○	○	○	○	○	真面目にコツコツとがんばり、力を伸ばしてきている。しかし、授業の中では、つまずきが多く自分一人で考えをもつことが難しい。
D 児	○	○	○	×	○	×	図形領域に苦手意識がある。正しく公式を使ったり、判断したりすることが苦手。

これらの結果から、本単元では公式を覚えることはできるが、それをどのように用いてよいのかがわからない児童が予想される。そこで単元の構成を変更し、第4時に教科書 P5 5円の面積の公式作りを行い、第5時に半円や4分の1円などの面積を求める演習時間を設定する。これにより、より、多様な見方で図形を見ることができるのではないかと考える。また、A 児や B 児には個別の支援を行う必要があり、C 児や D 児は教科書を見たり、周りに聞いたりして学習できる姿を目指す。また、手立てとして考えが持てない児童を前に呼んで、より時間をかけて見通しを持たせる場面を設定する。

### (3) 研究内容との関わり

令和6年度 高山市小学校算数部会研究テーマ

見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる指導の在り方

#### 研究内容Ⅰ 主体的・対話的で深い学びの実感に向けた授業改善

##### ①主体的な学びにつながる課題づくりの工夫

- ・予習の確認を行うことで、子ども達の実態を見届け、導入につなげる。
- ・今日の流れを見える化し、子どもが本時目指す出口を明確化する。
- ・予習してきたことをもとに、これまでどのちがいや何を使って考えるかを話し合う。

算数の予習に取り組む習慣はついており、問題を読んで教科書に線を引く、「①式とそのわけ②およそいくつか③これまでどのちがいや④何を使って考えるか。」の4つの項目について、児童は個人で考えられるところまで、予習をしてくる。本時はその中の、②、③、④を導入時に問いかける。すべてを自分で解いてくるという予習ではなく「今日はどんな問題に挑むだろう。」「自分が難しい、わからないと思うところはここだ。」ということを明らかにしてくる。これにより、児童が見通しをもって授業に臨む。また、導入にかかる時間を短縮し、追究の時間を確保するための手立てとする。

・本時の課題となる点である曲線で囲まれた図形であることを明確にし、面積を求められる図形（円や正方形）の組み合わせにすれば、円の面積の公式が使いそうだという見通しをもたせる。

##### ②数学的な見方・考え方を働かせて、自分の考えをもつ指導の工夫

・単元の導入時の工夫として、単元名を確認し、この単元ではどんなことをしていくか教科書を見る活動を取り入れる。

- ・予習してきたことをもとに、これまでどのちがいや何を使って考えるかを話し合う。
- ・面積の求め方を図で示したものを用意し、考えをもつことが難しい児童への手立てとする。
- ・円の面積の公式が使えている部分に青線を引く。これにより、課題を意識した追究にする

##### ③対話によって、数学的な見方・考え方を深める交流の在り方

・タブレットで仲間の考えを参考にしたり、直接仲間に聞いたりして、自分の学びを確かにしていく。

・交流をするときは自分の考えと違うところや同じところまた、円の面積の公式を使えているところを見つけるという視点を与える。

- ・仲間と交流するときは、話しているところを指し示しながら、根拠を明確に話す姿を目指す。
- ・教師の発問で、解釈・統合を行い、学びを深めるきっかけにする。

#### 研究内容Ⅱ 見方・考え方を働かせ、深い学びを実感できる評価の工夫

【数学的な見方】事象を数量や図形及びそれらの関係についての概念等に着目してその特徴や本質を捉えること

【数学的な考え方】目的に応じて数、式、図、表、グラフ等を活用しつつ、根拠をもとに筋道を立てて考え、問題解決の課程を振り返るなどして既習の知識及び技能等を関連付けながら、統合的・発展的に考えること。

##### ① 数学的な見方・考え方やその働かせ方を見届ける場の工夫

##### ② 数学的な見方・考え方やその働かせ方を見届ける方法の工夫

・スクリーンショットを活用し、仲間の意見を自分のノートに取り入れる。これにより、本人が考えたものか、仲間の考えを写したものかを判断できるようにする。

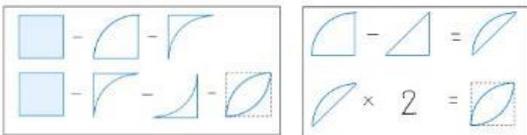
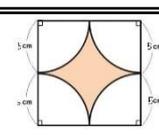
・演習時間は、自分で問題や取り組みを選択する。これにより、主体的に学習に取り組む態度を育み、個別最適化な学習を目指す。

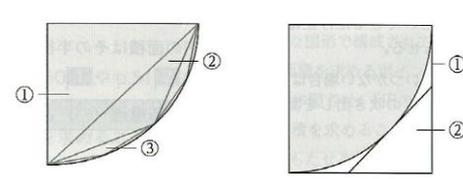
- ・振り返り用紙（シラバス）に振り返りを行い、単元を通した児童の変容を評価しやすくする。

5 本時の目標

円周を含んだ複合図形の構成要素について考え、円や正方形をもとにして図形を捉えれば面積が求められることに気づき、計算で面積を求め、その考え方を説明できる。

6 本時の展開 (6/8)

	学習活動	研究内容について
つかむ	<p>0. 予習の確認・今日の流れの確認</p> <p>1. 問題1提示</p> <p>右の図で、色のついた部分の面積を求めましょう。</p> <p>今までとのちがいは、前は円の一部分を求めたり、正方形から円の一部分を除いた部分を求めたりしたけど、今日はさらに複雑な図形(すべて曲線で囲まれた図形)になっている。</p> <p>何を使って考えるか 図や式を使って考えられそう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どう考えても円ではないけれど、この図の中に円が見えるだろうか。</li> <li>・円のような部分はどこだろう。</li> <li>・この単元は「円の面積の求め方を考えよう」だから、円が関わっているはずだ。</li> <li>・円が見えれば円の面積の公式と正方形の公式を組み合わせることで求めることができるはずだ。</li> <li>・曲線が二つになっている→二種類の円が組み合わさっている図形</li> </ul>	<p><b>【研究1 主体的・対話的で深い学びの実感に向けた授業改善】</b>※①～③は研究内容とリンク</p> <p>①予習の確認を行うことで、子ども達の実態を見届け、導入につなげる。</p> <p>①今日の流れを見える化し、子どもが本時目指す出口を明確化する。また、主体的に取り組む姿を育む。</p> <p>①②予習をもとに、これまでとのちがいや何を使って考えるかを話し合う。</p> <p>①. 本時の課題となる点を明確にし、面積を求められる図形(円や正方形)の組み合わせにすれば、円の面積の公式が使えそうだという見通しをもたせる。</p> <p>②. 面積の求め方を図で示したものを用意し、考えをもつことが難しい児童への手立てとする。</p> <p>②. 円の面積の公式が使えている部分に青線を引く。これにより、課題を意識した追究にする</p> <p>③. タブレットで仲間の考えを参考にしたり、直接仲間へ聞いたりして、自分の学びを確実にしていく。</p> <p>③交流をするときは自分の考えと違うところや同じところ、円の面積の公式を使っているところを見つけてという視点を与える。</p> <p>③仲間と交流するときは、話しているところを指し示しながら、根拠を明確に話す姿を目指す。</p> <p>③教師の発問で、解釈・統合を行い、学びを深めるきっかけにする。</p>
考える	<p>2. 課題化</p> <p>円を見つけて、円の面積の公式を使って、この面積の求め方を考えよう。</p> <p>3. 個人追究をする(交流も行う)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・円の面積の公式が使えている部分に青線を引く。</li> <li>・図と式の両方で考えた場合は、図と式を矢印でつないで、考えをもてるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <math display="block">100 - 78.5 = 21.5</math> <math display="block">21.5 \times 2 = 43</math> <math display="block">100 - 43 = 57</math> <p style="text-align: center;">答え 57cm<sup>2</sup></p> </div> 	<p>②. 円の面積の公式が使えている部分に青線を引く。これにより、課題を意識した追究にする</p> <p>③. タブレットで仲間の考えを参考にしたり、直接仲間へ聞いたりして、自分の学びを確実にしていく。</p> <p>③交流をするときは自分の考えと違うところや同じところ、円の面積の公式を使っているところを見つけてという視点を与える。</p> <p>③仲間と交流するときは、話しているところを指し示しながら、根拠を明確に話す姿を目指す。</p> <p>③教師の発問で、解釈・統合を行い、学びを深めるきっかけにする。</p>
深める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人追究ができたなら仲間と交流をしたり、別解で考えたりする。</li> <li>・スクリーンショットを使い、仲間の意見を取り入れていく。</li> <li>・自分の考えと取り入れた考えを、矢印などで結び付けていく。</li> <li>・個人追究で行き詰まったら、仲間のノートを見たり、仲間の考えを聞いたりしながら追究する。</li> </ul> <p>4. 全体追究</p> <p>T: 「この図だけを見て、どのように考えたか説明できる人はいますか。」→解釈</p> <p>T: 「同じように説明できる人はいますか。」→解釈</p> <p>T: 「ようするに、このような曲線で囲まれた形は、どうすれば求めることができますか。」→統合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの考えも共通点は円の面積の公式を使えば解決できるな。</li> </ul>	<p><b>【研究2 見方・考え方を働かせ、深い学びを実感できる評価の工夫】</b>※①～③は研究内容とリンク</p> <p>①スクリーンショットを活用し、仲間の意見を自分のノートに取り入れる。これにより、本人が考えたものか、仲間の考えを写したものかを判断できるようにする。</p> <p>①②演習時間は、自分で問題や取り組みを選択する。これにより、主体的に学習に取り組む態度を育み、個別最適化な学習を目指す。</p> <p>①②振り返り用紙(シラバス)に振り返りを行い、単元を通じた児童の変容を評価しやすくする。</p>
まとめる	<p>5. 学習のまとめをする</p> <p>このような図形も、円を見つけて公式を使えば、積を求めることができます。</p> <p>6. 評価問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次のような図も円の公式を使えば、求めることができるだろうか。</li> </ul>  <p>7. 演習時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラスワン ・web ラーニング(今日のもんだい)</li> <li>・本時の問題を他の方法で再び考える。</li> <li>・第1時に自分で書いた図の面積を求める。</li> </ul> <p>8. 振り返り(シラバスに今日の学びを振り返る)</p>	<p><b>【評価規準】</b></p> <p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図形を構成する要素などに着目して、既習の求積可能な図形の面積の求め方を基に考えたり、説明したりしている。</li> </ul> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・半径の長さがわかれば、公式に当てはめることで円を含む図形の面積を求めることができるというよさに気付いている。</li> <li>・円の面積の求め方を、進んで生活や学習に活用しようとしている。</li> </ul>

時	1・2	3	4 (算数たまたご)
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲線がある図形の面積の比べ方を考えようとし、既習学習での求め方をもとに考えることができる。また、円に外接した正方形や内接した正方形を使って、円の面積のおよその大きさの見当をつけることができる。</li> <li>・方眼紙を用いて円の面積を実測し、円の面積は半径を1辺とする正方形の面積の何倍の大きさになっているか考えることができる。</li> </ul>	円を何等分かした扇形を並べ替え、その形が平行四辺形や長方形に近似することから、円の面積について考え公式を導くことができる。	円の面積を二等辺三角形に近似させ、円の面積の公式を導くことができる。
規 準 評 価	思① 態①③	思①② 態①	知①② 思①② 態①
て 予 想 さ れ る つ ま ず き と 手 立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1cm<sup>2</sup>のいくつ分で考えたいけれど、マスいっぱいになっていない面積はどうすればいいかわからない。</li> <li>・三角形などの今まで学習した図形をもとにしたいが、どこで分ければいいかわからない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・㊦の長さや、㊩の長さがあるもとの円のどこに相当するかがわからない。</li> <li>・円の面積の公式の導き方がわからない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・㊦の長さや、㊩の長さがあるもとの円のどこに相当するかがわからない。</li> <li>・円の面積の公式の導き方がわからない。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスいっぱいになっていない四角形はすべて0.5cm<sup>2</sup>と考えてみたらどうかと提案する。</li> <li>・実際に補助線をひき、底辺と高さを書き込ませ、公式に当てはめさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元の円と、円を細かく等分して、並べ替えた長方形に近似した図形を比較して、どこに対応しているかをつかませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の考え方をもとに、もとの円と変形した三角形のどこに対応しているか、図形を比較して、考えさせる。</li> </ul>
学 習 活 動	<b>導入</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元名が「円の面積の求め方を考えよう」であることを確認し、この単元でどんな学習をしていくのか確認する。</li> <li>・第6時に求める面積をコンパスでノートにかく。</li> <li>・他にも、正方形の中にコンパスで図形をかいてみる。</li> <li>・5年生の時の円周の学習や直線で囲まれた図形の面積の求め方を復習する。</li> <li>・半径を1辺とする正方形をもとにして、円の面積は面積の2倍より大きく、4倍より小さいと見当をつける。</li> </ul> <b>個人追究</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           円の面積は半径を1辺とする正方形の面積の約何倍になるかを考えよう。         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1cm<sup>2</sup>のいくつ分で考える。</li> <li>・三角形をもとにして考える。</li> </ul> 個人追究後、交流を行い、何倍になるのか他の児童の考え方を聞いたり、自分の考えを伝えたりする。	<b>導入</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・円の面積を求める。</li> <li>・円を既習の形に変形できないか。</li> </ul> <b>個人追究</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           円の面積の公式をつくらう。         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・円を8等分して並べ替えた図形などを使って平行四辺形や長方形に近似していくことを</li> <li>・長方形だったら、縦×横で求められる。㊦や㊩は、もとの円のどの部分のことなのか考える。</li> <li>・円の面積＝半径×円周÷2 という公式を導く。</li> </ul> <b>集団追究</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           円の面積を覚えやすい形に変形できないか。         </div> $\begin{aligned} \text{円の面積} &= \text{半径} \times \text{円周} \div 2 \\ &= \text{半径} \times \text{直径} \times \text{円周率} \div 2 \\ &= \text{半径} \times \text{半径} \times \text{円周率} \end{aligned}$	<b>導入</b> 今日は、円が二等辺三角形のような形に近づいている。
課 題			<b>個人追究</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           円を変形して他の図形とみても、円の面積＝半径×半径×円周率の公式を導けるか考えよう。         </div>
深 め			①動画をみて、円を二等辺三角形に変形させるイメージをもつ。  ②円を16等分した形を、二等辺三角形になるように、積み重ねてできた形を二等辺三角形とみなし、公式を導く。
ま と め	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           この図を見て、どのように考えればよいかわかる人はいますか。            </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">           1cm<sup>2</sup>のいくつ分で考えたり、三角形をもとにしたりして考えれば、円の面積は、その半径を1辺とする正方形の面積の約3.1倍になっていることがわかる。         </div>	<b>まとめ</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           円を変形して他の図形とみても、やっぱり円の面積＝半径×半径×円周率の公式になる。         </div>	<b>まとめ</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           円を変形して他の図形とみても、やっぱり円の面積＝半径×半径×円周率の公式になる。         </div>
	<b>演習問題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェブラーニング (今日の問題1・2)</li> <li>・個人追究, 集団追究で調べきれなかった考え方の再追究</li> </ul>	<b>演習問題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・🚩 1</li> <li>・ウェブラーニング(今日の問題3)</li> <li>・集団追究で調べきれなかった考え方の再追究</li> </ul>	<b>演習問題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント</li> </ul>
考 え 方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いくつ分で考える。</li> <li>・今までに学んだことを使って説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までに学んだこと (円周の長さの公式, 長方形の面積の公式) を使って説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までに学んだこと (円周の長さの公式, 三角形の面積の公式) を使って説明する。</li> </ul>

時	5	6 (本時)	7 (演習)	8 (テスト)
ねらい	半円や4分の1円など円をもとにした図形の面積を求めることができる。	円周を含んだ複合図形の構成要素について考え、円や正方形をもとにして図形を捉え、面積を求めることができる。	学習したことを用いて、演習問題に取り組むことができる。	学習内容の定着を確認する。
評価規準	知①	思① 態②③	知① 態②	知①②
てま予 ず想 きさ と 手 立 つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>半円の面積を求めるときに、直径の長さを足してしまう。</li> <li>÷2の意味を考えさせる。</li> </ul>			
学習活動	<p><b>導入</b></p> <p>■2のような4分の1円などの図形を見て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>円の面積の求め方を考えようの単元だから、円の面積の公式を使うだろう。</li> <li>円そのものではないけれど、円の一部分だから、円を見いだせば、円の面積の公式を使って、求めることができそうだと予想する。</li> </ul> <p><b>個人追究</b></p> <p>円の面積の公式を使って、面積を求められるか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>円の公式が使えた部分に線を引いて、課題を意識した追究にする。</li> <li>メタモジで図と式を結び付けながら、考えをもつ。</li> </ul> <p><b>集団追究</b></p> <p>○多様な考え方を知る。</p> <p>半円の面積を求める問題で、円周を求めるときのように、直径をたす必要がありますか。</p> <p><b>まとめ</b></p> <p>円を見いだして、円の公式を使い、形に合わせて計算すれば面積を求めることができる。</p> <p><b>演習問題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プラスワン (サ)</li> <li>ウェブラーニング (今日の問題 (3))</li> <li>算数の練習</li> </ul>	<p><b>導入</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>円の面積の求め方を考えようの単元だから、円の面積の公式を使うだろう。</li> <li>円そのものではないけれど、円の一部分だから、円を見いだせば、円の面積の公式を使って、求めることができそうだと予想する。</li> </ul> <p><b>個人追究</b></p> <p>円の面積の公式を使って、面積を求められる図形の組み合わせにして、この面積の求め方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>円の公式が使えた部分に線を引いて、課題を意識した追究にする。</li> <li>メタモジで図と式を結び付けながら、考えをもつ。</li> </ul> <p><b>集団追究</b></p> <p>○多様な考え方を知る。</p> <p>図だけを見て、どのように考えたか説明できる人はいますか。</p> <p><b>まとめ</b></p> <p>円を見いだして、これまで学習した形の組み合わせとしてみると面積を求めることができる。</p> <p><b>演習問題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プラスワン (シ)</li> <li>ウェブラーニング (今日の問題 (4・5))</li> <li>本時の問題の再追究</li> <li>第1時にかいた図形の面積を求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>たしかめ問題の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペーパーテストの実施</li> <li>テスト直し</li> </ul>
課題				
深め				
まとめ				
考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>今までに学んだことを使って説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今までに学んだことを使って説明する。</li> </ul>		